



白馬童子

糸魚川市立糸魚川小学校

学校だより 第9号

令和6年1月25日

TEL:025-552-0042 FAX:025-552-1304 E-mail:itosyo@itoigawa.ed.jp

(HP)<https://www.itoigawa.ed.jp/itosyo/>(携帯)<http://itoigawa.ed.jp/itosyo/otayori/i/>

「あたりまえ」のこと (始業式 校長講話から)

校長 富永 浩文

2024(令和6)年は、能登半島大地震の発生により、元旦の祝賀ムードが一転、辛い、不安な幕開けとなりました。保護者の皆様、地域の皆様には、被害を受けられた方もおられたのではないかと、心からお見舞い申し上げます。今改めて、「あたりまえ」に過ごす、日常生活の尊さを実感します。始業式では、当初考えていた話の内容を取りやめ、地震を受けて私が感じたことを子どもたちに話をしました。(以下講話の内容)

今日の始業式では次のこととお話しします。それは、「あたりまえ」ということです。このことについて三つお話をします。

一つ目は、「あたりまえ」への感謝です。今回地震が発生し、私も近所の学校の体育館に避難しました。インターネットが使えません。電話も使えませんでした。最初暖房も、食べ物もありませんでした。「あたりまえ」の生活ができなくなりました。初めて、「あたりまえ」の生活のありがたさに感謝しました。残念ながら、まだ「あたりまえ」が戻っていない人もたくさんいます。皆さんも、ちょっと立ち止まり、自分の「あたりまえ」の生活を見つめ、それが色々な人のおかげでできていることに感謝し、大切に過ごしましょう。

二つ目は、「あたりまえ」にやっていること、やらなければならないことを、正しく、よりよくやろうということです。生活リズム、例えば早寝早起き朝ごはん、メディア2時間まで、学習や生活のきまり、ルールなど、「あたりまえ」にやらなければならないことがたくさんあります。私にも、「あたりまえ」にやらなければならないことがあります。皆さん、自分が「あたりまえ」にやらなければならないことを、しっかりと考えて、いい加減にせず、正しく、よりよく、そして美しくやるように努めましょう。

三つ目は、「あたりまえ」は、人によって違うということです。自分にとって「あたりまえ」のことでも、必ずしも人には「あたりまえ」ではないことがあります。自分と同じことを友達ができなくても、自分と同じじゃないからと責めたり、ばかにしたりしない。違いを認め、受け入れられる広い心を持ちましょう。

以上、「あたりまえ」に関する三つのこととお話ししました。「あたりまえ」について考え、自分の生活に生かしてくれとうれしいです。

さて、3学期は51日間、1学期や2学期に比べて大変短いです。一日一日を大切にして、学校のめあて「やさしく、ゆたかに、たくましく ともに学びを深める子」を目指していきましょう。私は、色々な場面での、人と人との対話が大切だと思っています。あいさつも含めた、生活の中の温かい言葉と言葉の交換、キャッチボールです。みんなで頑張っていくしましょう。



「あたりまえ」をよりよく(あいさつ運動)

毎朝通勤で学校へ向かう車窓からは、海を隔てて能登半島の山並みが見えます。震災に見舞われて、不自由な生活を送っておられる方々を思うと、胸が締め付けられます。一日も早い復興、「あたりまえ」の日常の到来を祈らずにはおられません。被災された皆さんに思いをはせながら、共に前を向いて歩みを進めていきたいと思っています。本年もよろしくお願いいたします。